

NO.188

全 仏

6 / 48



(真宗開宗750年慶讃法要に集う幼稚園児
— 5月4日東京本願寺)

全仏結成二十年記念

池上本門寺大会 二十六日より開かる

「人類の危機を救おう、仏教で」の大会スローガンのもと、第二十一回全日本仏教徒会議はいよいよこの二十六日開催されるが、これまでに準備委員会をはじめ、各種の小委員会が回を重ねて開かれこのほど大会役員も決まり、議案も多数提出されて大会準備も最後のツメの段階に入っている。

今回は全仏結成二十年記念の大会でもあり、一層会議の充実を計るべく、各宗代表者会議や都道府県代表者会議を併せて開催し、部会も仏教界が現在当面する諸問題についてテーマ別に開設することによって、それらの具体策が打ち出されるのが期待される。

◎大会役員（敬称略）

大会総裁 佐藤泰舜
大会副総裁 金子日威、梶浦逸外、栗本俊道

大会長 鈴木 悟
大会副会長 渡辺公允、中野顯文

顧問 清水谷恭順、大野法道、杉谷義周、小林良弘、長岡慶

参与 三井宣雄
信、岡野正道

大会実行委員長 麻布照海

大会実行副委員長 梶井大乗、鈴木敏範

◎表彰者選考委員会 真溪義貫、岡野貴美子、酒井謙祐、原教運

全仏結成以来過去二十年、全一仏教運動ならびに仏教興隆に寄与された功労者に対し、この記念大会を機に顕彰すべく、その被表彰者の選考を協議してきたが、顧問、参与、理事等の役職員、各県仏役員、専門委員等として功績のあったもの一四〇名余に感謝状等を贈呈してその功を讃える。

また、同功労者にして、すでに遷化された物故者に対しては、式典で追悼法要を営み、その功に感謝するとともに冥福を祈ることになり、対象者五十名余を選出して遺族にも参列をご案内している。

なお同選考委員は、鈴木悟、栗本俊道、清水谷孝尚、工藤義修、鈴木敏範、熊野竜夫、新川日見、真溪義貫、白川良純、金岡秀友、岡野貴美子、慶野聡郎、新美孝道、板橋有成、渡辺公允、麻布照海の各師。

◎記念誌編纂委員会

結成二十年の記念事業の一つとして、この二十年間の全仏の歩みを記録する記

念誌「全仏二十年のあゆみ」を編纂することになり、編纂委員会のもとで資料収集等が進められてきたが、大会当日までに刊行される運びとなった。

内容は、昭和二十八年全仏結成までの全仏前史、二十八年から現在までの全仏年表、二十回を重ねた全仏大会の経過を中心として、歴代役職員名簿、加盟団体名簿、現職役員名簿、全仏関係各氏の所感、さらに三月十五日に開かれた座談会「二十年を語る」（出席者一友松田諦、栗本俊道、真溪義貫、山本スギ、河和田唯賢の各氏）の回顧録等を収録している。B5版、九十六頁の冊子で大会参加者に記念として配布する。

同編纂委員は、真溪義貫、中村康隆、中根専正、白川良純、鎌田良昭、郡司博道、岩本英樹の各師。

◎議案審査委員会

委員長 熊野竜夫
副委員長 摩尼清之
委員 金岡秀友、真溪義貫、丸山日雄、神野真一、板橋有成

大会の五部会において討議する議案が加盟各団体より提出され、締切日の五月三十一日、議案審査委員会に計られた結

果、次の十四議案が通過、大会総会に上提されることになった。

- 一、アジア仏教圏へ日本仏教使節団を派遣しよう（提出団体一孝道教団）
- 二、釈尊成道の聖地に日本寺を完成し、アジア仏教徒との交流を密にするとともに協力して人類の繁栄と平和に貢献しよう（国際仏教興隆協会）
- 三、社会福祉と仏教的対策（和宗四天王寺）
- 四、教学と教団の関係を通してみじく自己批判しよう（日蓮宗）
- 五、寺檀の本来的あり方を樹立しよう（真言宗智山派）
- 六、全一仏教的な布教活動を推進しよう（天台宗）
- 七、僧衆一体の同行布教を展開しよう（高野山真言宗）
- 八、仏教徒アピール委員会一仮称一を設置しよう（東京都仏教連合会）
- 九、現下の幼児教育問題について（真宗大谷派）
- 十、仏教青年の結集を計ろう（全日本仏教青年会）
- 十一、ベトナム仏教徒を支援し交流を深めよう（近代仏教研究会）
- 十二、仏教的な社会教育運動を展開しよう（福岡県仏教連合会）
- 十三、布教プロジェクトチームを組織しよう（臨済宗妙心寺派）
- 十四、アジアの開発と平和の確立のため日本でアジア仏教徒会議を開催しよう（真言宗豊山派）

全仏事業報告 (47年度) を承認 歳入歳出決算

昭和四十七年度の全仏事業報告および歳入歳出決算等を審議する全仏理事会がさる五月二十一日午後二時より、東京本願寺において開催され、大方の議案が原案通り承認された。

当日の出席理事は、山本スギ、南谷恵澄、貝山宣泰、黒田白純、清水谷孝尚、野村宗春、上田頼石、別所弘因、伊藤哲雄、岡野正道(雑谷代理)、近藤本昇(北川代理)、工藤義修の各氏(順不同敬称略)と委任状二十一名。

議案一 昭和四十七年度財団法人全日本仏教会事業報告について
別掲記事通り承認
議案二 昭和四十七年度財団法人全日本仏教会歳入歳出決算について
別掲記事通り承認

議案三 剰余金処分案について
歳計剰余金一、七〇八、三三〇円については、その中一〇〇万円は本年十二月の本法主催の日本寺落慶法要の費用として、残り七〇万余は職員俸給の増額等に当てることとし、更正予算で組み入れることを承認。

議案四 念法真教加盟申請について

全仏理事会開催

加盟を承認(別記事)
議案五 W F B Y 日本支部設立について

各仏教青年会の意向意欲を打診して、よく検討した上で、準備委員会を設置する方向にすすめることとし、この設立の件は保留。(別記事参照)
議案六 アピール委員会設置について
全仏機構改正案にあるように、社会問題に対し即刻に適切な仏教徒の意見、立場を大衆社会に公表アピールする機関をもつべきであるとの結論から設置を承認。委員の構成、人選については理事長に一任。なお、同委員会は国際文化局の所轄として、特別委員会とする。

念法真教が全仏加盟

かねてより全仏加盟を申請(三月七日付)していた念法真教教団は、五月二十一日の理事会の承認を得て正式に加盟が決定した。

名称 念法真教教団
所在地 大阪市城東区別所町一二五

役員

- 灯主 小倉豊現
 - 管領 小倉良現
 - 代表役員(教務総長) 長谷川豊信
 - 責任役員(財務部長) 稲山豊芳
 - 〃 (参議) 一瀬良寛
 - 〃 (総務部長) 大倉律現
 - 〃 (教育部長) 中野幸現
 - 〃 (参議) 小林戒現
 - 〃 (参議) 出口正宏
- 同教団は、金剛寺を総本山に、寺院数十、教会二十八、布教所その他一二二、教師二、五二二、信徒数五三二、一六六を数える。(天台系)。

関東甲信越静ブロック会議開催さる

ブロック会議開催さる

昭和四十八年度の関東甲信越静ブロック会議はさる五月二十五日、栃木県の鬼怒川温泉「きぬ川館本店」会議室に三十三名の代表者を集めて開催された。

今年度は東京で全仏大会が開催されることもあって、大会についての議題を中心として、大会についての議題を中心として、簡略に議事を進められた。以下、簡略に議事録を紹介する。

「第二十一回全日本仏教徒会議について」全仏事務局より参加依頼等要望をかねた経過報告がなされ、その結果、東京を除いたブロック県仏で百名以上の参加を募るよう決議された。

「時局対策とくに税制問題について」東仏の都司事務局長より説明があり、最近の法人税法のあり方について熱心な討論がなされたが、この件については後日全仏税制特別委員会でもとめていくことになった。

「寺院共済組合の強化拡充策について」埼玉県仏の北之内事務局長より説明があった後、神奈川県、東京より意見の交換があり、難しい問題だがその強化拡充は是非必要なことなので強力にその充実を計ろうと決議された。

あと、追加議題として、全仏国際文化局より本年末のインド日本寺落慶法要への参加の呼びかけと韓国仏教図書館への贈書運動に協力の依頼がなされた。なお当日の議長は栃木県仏副会長阿部諒童師であった。参加者は次の通りである。

- 貝山宣泰(神奈川県)、土田真也(新潟)
- 井村胤心、安藤惟光(山梨)、松浦亮一(群馬)
- 北川有光、郡司博道(東京)
- 丸山宗隆、袖山栄真(長野)、野村思賢、寺田康世(静岡)、土持良栄、月間照孝、熊野明夫(千葉)、栃木県仏は黒田白純
- 会長、阿部諒童副会長、長田善弘、中田啓心、西山公愛、貴船湛道、手塚泰山、那須徹夫(理事)、稲木宏済(事務局長)
- 岩田定憲、高木敏了(事務局)。全仏は麻布照海事務局長、桜井大乗次長、鱈淵正浩総務局長、栃木県仏副会長兼理事長、柳了堅国際文化局長、和田龍宏財務部長、小峰令丸庶務部長、岩脇宏信組織部長、北山孝雄主事であった。

事業報告

(四十七年度)

一、加盟仏教団体相互の連絡・提携および親睦

47・4・5 日蓮宗管長藤井日静親下本

葬参列

4・8 日本仏教總仰会「花まつり」

後援

4・19 千葉県仏役員総会出席

4・24 日蓮宗管長就任祝賀会出席

5・5 東京本願寺「藤まつり」参

列

6・10 神奈川県仏総会出席

7・8 仏教總仰会「都民益まつり」

参列

8・3 大本山増上寺本堂上棟式参

列

9・2 全仏理事長星谷慶縁師本葬

参列

9・18 全日本仏教婦人連盟年次大

会および晩餐会出席

10・25 栃木県仏教徒会議出席

10・29 長野県仏教徒会議に出席

11・10 関東甲信越静ブロック懇親

会出席

11・28 真言宗豊山派管長就任式参

列

12・15 真言宗豊山派總本山長谷寺

化主晋山式参列

48・1・15 埼玉県仏教会新年会出席

1・23 全日本仏教婦人連盟修正会

法要出席

1・25 全日本仏教会新年懇親会

催

二、仏教化運動の総合的企画および促進

進

47・5・18 仏教文化会議運営委員会開

催(東京)

5・27 文化会議運営委員会開催

(京都)

6・2 文化専門委員会(第一回)

開催

8・28~29 仏教文化会議開催

10・23 文化専門委員会(第二回)

開催

12・7 各宗教化担当学会議開催

48・2・22 文化専門委員会(第三回)

開催

3・5 全仏中央講習会開催

3・15 全仏二十年を語る"座談

会開催

三、諸官庁および関係諸団体との連絡

毎月一回日本宗教連盟理事

会・幹事会出席

47・5・18 個人立・宗教法入立幼稚園

に関する学校教育法等改正

案の国会提出に対する抗議

文提出

5・25 昭和四十七年度宗教法人実

務研修会共催

6・1~2 第四回世界連邦平和促

進宗教者大会

10・6 法務省矯正局より依頼の教

誨師表彰者推薦に協力

12・16 墳墓地貸付業に関する疑義

についての質問状を文部大

臣宛提出

四、各種仏教運動の実践及び育成

毎月一回「全仏」の発行

47・6・8 税制特別委員会を設置

6・13~14 東北ブロック会議開催

6・22~23 関東甲信越静ブロッ

ク

会議開催

8・4 沖繩県仏の加盟を依頼

10・2~3 第二十回全日本仏教徒

会議青森大会開催

48・2・1 英文ガイドブック増刊

五、各国のWFBセンターおよび仏教者

団体との連絡

47・9・28 ネパール国王追悼一周忌に

出席

11・10 インドネシア仏教会会長一

行三名来日 歓迎会開催

11・16 「日中国交」にともなう全

仏と台湾仏教会との今後の

あり方について緊急国際専

門委員会開催

12・13 台湾仏教会会長宛親書を発

送

48・2・19 タイ国よりタイ仏教会代表

団九名来日

六、世界仏教徒会議への参加および文化

交流の促進

47・5・22~26 第十回世界仏教徒会議

スリランカ大会に日本代表

二十三名参加(团长 伊藤 哲雄師)

七、仏教および仏教徒による国際親善お

よび文化交流の促進

47・5・10 仏教伝来謝恩碑除幕式(韓

国) 麻布事務総長出席および

び会長祝辞発送

7・3 外務省依頼により韓国徐英

姫女史全仏に来訪、仏教に

関する懇談会開催

7・21 世界宗教ツア(アメリカ)

一行二十五名来日 宮本正

尊師、国学院小野教授を迎

え座談会を開催

7・24 韓国より李能嘉師来日 仏

教図書館設立につき仏書寄

贈依頼あり

8・3 "インドシナの平和と正義

のための宗教者世界集会"

で来日の代表団歓迎会を共

催

8・21 韓国仏教図書館設立のため

の仏書贈呈運動を展開する

10・14 ネパールにおいての仏教展

示会に英文ポスター、パン

フレット、ポスター等発送

48・2・26 ポロブドール視察団々員二

十名をインドネシアへ派遣

する。

昭和47年度財団法人全日本仏教会歳入歳出決算書 歳出の部

歳入	1金	29,769,521円	歳入予算高
	1金	30,109,272円	歳入決算高
歳出	1金	29,769,521円	歳出予算高
	1金	28,400,942円	歳出決算高
	1金	1,708,330円	歳計剰余金
内訳	1金	1,708,330円	銀行預金

監査の結果証憑も完備し収支が適正に行なわれていたことを認めます。

昭和48年5月14日

監事 久保 埜 太 清 ㊟
監事 船 口 暉 子 ㊟

歳入の部

科 目			本 年 度 予 算 額	本 年 度 決 算 額
款	項	目		
1.負担金			28,555,700	26,832,400
	1.各宗派負担金		25,081,700	24,361,400
	2.各団体負担金		3,474,000	2,471,000
2.寄付金			200,000	600,000
3.未納徴収金			100,000	1,065,050
4.基金果実			763,821	779,145
5.雑収入			100,000	446,786
6.繰越金			50,000	385,891
歳 入 計			29,769,521	30,109,272

(右側歳出の部つづき)

科 目			本 年 度 予 算 額	本 年 度 決 算 額
款	項	目		
1.国際運動費			2,130,000	2,042,025
	1.関係費	W F B	400,000	322,300
	2.国際交流費	国際仏教	1,300,000	1,301,277
	3.渉外弘報費	渉外弘報	430,000	418,448
5.文化局費			3,100,000	2,963,905
	1.文化会議費		650,000	624,168
	2.教化費		1,250,000	1,141,285
		1.講習会費	350,000	303,480
		2.教化諸費	650,000	619,805
		3.資料作成費	250,000	218,000
	3.機関紙発行費		1,200,000	1,198,452
6.雑費			110,521	46,800
7.予備費			450,000	備品費へ充当(235,000)
歳 出 計			29,769,521	28,400,942

科 目			本 年 度 予 算 額	本 年 度 決 算 額
款	項	目		
1.総務局費			17,899,000	17,769,977
	1.人件費		9,631,800	9,599,307
		1.職員俸給	5,076,000	5,060,613
		2.諸給	3,196,800	3,205,562
		3.厚生費	769,000	733,132
		4.退職積立金	600,000	600,000
	2.事務費		3,157,200	3,097,345
		1.借館借室費	1,200,000	1,200,000
		2.通信費	1,207,200	941,850
		3.消耗品	100,000	102,239
		4.光熱費	200,000	148,990
		5.備品費	(235,000) 予備費より 100,000 充当	329,500
		6.印刷費	250,000	260,170
		7.雑諸費	100,000	114,596
	3.旅費		1,500,000	1,484,593
	4.関西事務局費		1,500,000	1,500,000
	5.渉外費		2,100,000	2,088,732
2.総務局費			3,380,000	3,018,808
	1.会議費		2,230,000	1,958,848
		1.理事会	370,000	304,010
		2.評議員会	980,000	861,595
		3.各種委員会	680,000	607,322
		4.諸会議費	200,000	185,921
	2.共通事項処分費		900,000	811,390
	3.調査研究費		250,000	248,570
3.組織局費			2,700,000	2,559,427
	1.組織強化費		2,100,000	2,023,865
		1.組織強化費	800,000	702,620
		2.国内仏教徒会議費	1,300,000	1,321,245
	2.時局対策費		500,000	450,562
	3.弘報費		100,000	85,000
		1.宣伝報道費	100,000	85,000
4.国際局費			2,130,000	2,042,025

WCRP 青年部会が創立

世界宗教者平和会議日本委員会

世界宗教者会議日本委員会（庭野日敬委員長）では、青年による自主的積極的な平和への運動を推進する趣旨から、委員会に關係する連合会および宗教団体の青年有志によって青年部会を結成するための準備がすすめられていたが、このほどようやくその氣運が熟して、さる五月十五日、立正佼成会普門館において、神道、仏教、キリスト教および諸教の青年指導者および來賓など約四十名が参加して創立總會および発会式が舉行された。

創立總會は、午後一時から議長に三宅美智雄師（神道）を選出して、①発会宣言、②青年部会規程、③役員選出、④活動方針、⑤事業計画、⑥予算などの議案を審議決定して閉会した。ひきつづき三時から発会式が舉行され、まず藤原当樞師（キリスト教）の司会によって開式。合唱、加藤隆久師（神道）による祈り、坂田安儀事務総長による経過報告のあと庭野日敬委員長から役員委嘱および挨拶がおこなわれ、つづいて三宅幹事長の挨拶、堀瑞比古日本宗教連盟理事長、佐藤泰舜全日本仏教会会長（新聞組織局長代読）松村菅和日キリスト教連合会委員長、および大石秀典新日本宗教団体連

合会事務総長の励ましの言葉。鑑照淳師（仏教天台宗）による発会宣言の朗読。山崎照義師（仏教真言宗）による祈り、合唱などがあつて、午後四時すぎ閉会した。このあと、青年部会の活動指針を求めて”をテーマとした懇談が行なわれ、午後六時すぎ散会した。

◎発会宣言

一九七〇年十月第一回世界宗教者平和会議が京都において開かれた。現代のさまざまな困難を敏感に肌感しているわれわれは、この會議に参加し、熱心な討議を経て大要次のような決議を行なつた。

- 一、世界の主要な宗教は青年の目から見て信頼され得るために、時代に応じ、自ら説くことを実践しなければならぬ。
- 二、青年は、具体的な実施計画を立案することなしに、単に決議文のみを採択することとどまる諸會議に疑問を抱くが故に宗教青年による世界宗教會議並びに青年委員會を設置することを要望する。

宗教は、その歴史・伝統のもとに脈々としてその教えを伝えてはいるが、一方においてそのしがらみの故に宗派の壁をこえて積極的な活動を起すにいたっていないのが現状である。

いつの時代においても歴史の重い扉を開き、時代に新風を吹きこんだものは青年たちであった。そして時代はまた常に青年に期待し、その献身を要請している。われわれは、ここに世界の宗教青年とともに手を携さえ、互いの宗教信仰を尊重しつつ、現代における人類の救済と世界平和を目指して立ち上るものである。

われわれの使命は重く、その道は険しい。しかし、同じ道をともに歩むものとして、ここでの出会いを尊び、絶望にあつて互いに励まし、希望に向つて力を合せて前進することを、ここに決意するものである。

昭和四十八年五月十五日

世界宗教者會議日本委員会青年部会

◎活動方針

われわれは、たがいの出会いを尊び、発会宣言を基調として、次の三項目を活動の基本方針とする。

- 一、自由に交流し、人間としての相互理解と信頼をふかめる（出合いの場）
- 二、宗教と平和に関する共同の学習および研究を行なう（啓発の場）
- 三、WCRPの運動に参画しこれを促進する（実践の場）

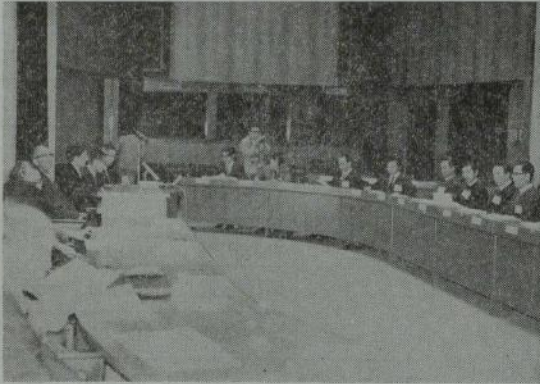
◎昭和四十八年度事業計画

- 一、学習会の開催 四回
- 宗教と平和をテーマとした共同学習、宗教施設および宗教活動の見学、合宿など。
- 会場を、各宗教のもちまわりとする。
- 二、各宗教グループとの懇談会
- 三、国内會議の開催 一回
- 例・全国青年宗教者懇談会
- 四、國際會議（在日の海外青年との開催 一回
- 例・日越青年宗教會議

◎役員

- 幹事長 三宅美智雄（金光教）
- 副幹事長 加藤 隆久（神道）
- ” 樹谷 淳宣（全日仏青）
- ” 植田仁太郎（キリスト教）
- ” 深田 充啓（円心教）
- 事務局長 勝山 恭男（WCRP日本委員会事務次長）

昭和48年6月1日



（青年部会創立總會の模様）

た。

そこで、最終回シンポジウムでは人間もまた生物進化の成果であり、その頂点に立つものであるとしても、なおかつ、その位置は進化の過程の中にあるのかどうか、特に人間が作り上げてしまった現在の環境が人間のDNAに規定された環境への適応性の限界を超えつつあるとき一体人類の未来はどうなるのか。外界の条件に適応しなくなっただけでは絶滅して新たに適応するものが進化出現するという理論からすれば、正に人類の危機であるといえないこともない。

したがって生物学が、この進化の成果である人間を、さらに進化の過程にある人間として対象化する場合、人間の未来像は一体どのようなものなのか、そしてまた、仏教が超生物学的な見解を持つとしたら人間とは一体何かを明かにすることによって、あるいは、人間生命論の哲學的基礎—メタバイオロジーの確立に大きな期待が持てるのではないかとと思われる。要は人間とは何かをこの最終面のシンポジウムで深く掘り下げたいというのが開催の趣旨である。

◎開催月日

八月二十一日・二十二日

◎会場

箱根仙石原「湖尻富士見荘」

◎基調講演

一、生物としての人間の本性
講師・東大教授 野田春彦

二、仏教から見た人間の本性

講師・東大名誉教授 宮本正尊
◎出席依頼者(順不同・敬称略)

- | | |
|--------------|-------|
| 九州大学名誉教授 | 秋重 義治 |
| 三菱化成生命科学研究所長 | 江上不二夫 |
| 南山大学教授 | 沢瀉 久敬 |
| 大正大学教授 | 勝又 俊教 |
| 東京大学助教授 | 鎌田 茂雄 |
| 名古屋大名誉教授 | 岸本 謙一 |
| 相模工大助教授 | 佐伯 真光 |
| 仏教大学教授 | 佐藤 密雄 |
| 大正大学助教授 | 塩入 亮達 |
| 大正大学教授 | 竹中 信常 |
| 東京大学教授 | 玉城康四郎 |
| 東京女子医大教授 | 千谷 七郎 |
| 東京大学教授 | 中村 元 |
| 駒沢大学助教授 | 奈良 康明 |
| 東京大学教授 | 野田 春彦 |
| 東京大学助教授 | 早島 鏡正 |
| 武蔵野女子大教授 | 花山 勝友 |
| 金沢大学教授 | 橋本 芳契 |
| 東京大学教授 | 平川 彰 |
| 産谷大学教授 | 福原 亮敏 |
| 成城大学教授 | 堀 一郎 |
| 高野山大教授 | 宮坂 宥勝 |
| 東京大学教授 | 武藤 義一 |
| 東京大学名誉教授 | 若林 勲 |
| 立正大学教授 | 浅井 円道 |
| 文化会議議長(東大) | 宮本 正尊 |
| 副議長(竜大) | 羽溪 了諦 |
| ”(東洋大) | 西 義雄 |
| ”(立正大) | 久保田正文 |
| ”運営委(東洋大) | 金岡 秀友 |

第二回「生命科学と仏教」

紀要を刊行 一頒布中—

- | | |
|--------|-------|
| ”(大谷大) | 雲井 昭善 |
| ” | 白川 良純 |
| ”(花園大) | 藤吉 慈海 |
| ” | 真溪 義貫 |
| ” | 摩尼 清之 |

昨夏、開催されたシンポジウム「生命科学と仏教」(第二回)の紀要がこのほ

一問一答集

「お寺と税金」を發行

全仏閣西事務局で編集

近年宗教法人の税法施行が拡大され、法人事務が煩瑣なものとなってきたが、不馴れな寺院関係者のために、一番知りたいことを詳しく細かく親切に解説した「お寺と税金」という本がこのほど出版された。

「宗教とコンピューター」セミナー

タ「セミナー

全仏閣西事務局において、日大川西誠教授の指導のもと事務総長、部長一丸となって研究を重ねたもので、内容は、公益・収益事業と税金との関係、住職や寺に關係あるものの税金、お寺が税金に強くなるためにどうすればよいか等について九十六問題を一問一答形式でわかりやすく解説している。

新書版、一八五頁で定価は三五〇円。

發行所は永田文昌堂。

照会は全仏閣西事務局まで、(京都市

ど発行された。
人間の「心」の問題を中心に人間を究明したが、その基調講演、「心に関する科学的見解」(若林勲教授)、「心に関する仏教の見解」(玉城康四郎教授)とさらに、それにもとづいて二十数名の仏教学者と科学者との間で行なわれた研究討論がすべて収録されている。

希望者には、一部送料共八百円で実費頒布するので、全仏閣西文化局宛申込むこと。B5版、一八七頁。

下京区堀川蓮花屋町下ル 浄土真宗本願寺派宗務所内。電話〇七五—三七一—五
一八一—内線情報部)

複雑多様化する情報化社会のなかにおいて、人間は自己を見失わない、様々な問題が提起されている。この情報化社会の担い手であるコンピューターとは如何なるものであるだろうか、また宗教との関連は如何なるものであるだろうか。このような問題

について、仏教伝道協会主催、全日本仏教会後援によるセミナー「宗教とコンピューター」が、さる五月二十五、六日の両

日にわたって、東京蒲田の富士通システムラボラトリーセンターにおいて開催された。

当日、セミナーには、各事務所、学校より三十余名が参加し、コンピュータのシステム、プログラム作成さらにはコンピュータの実習等に真剣に取り組んだ。

このセミナーでは、コンピュータを真に人間の幸福、社会の発展に役立てるためには、適切なプログラムの作成（目標の設定）が重要であることが特に強調され、この分野における宗教界の役割は非常に大きいことを痛感した。

なお、全仏よりは樹谷、杜多両主事が参加した。

WFB本部新館落慶

八月に

タイ国バンコク市にある世界仏教徒連盟本部の新しい会館がこのほど完成し、来る八月十七日にその落慶法要が営まれることになった。あわせてWFB常任理事会も開かれることになっている。

八月十七日 準備のため常任理事はバンコク到着のこと。

八月十八日 落慶式典

十九日～二十一日 バンコク滞在

二十三日 常任理事東京向け出発

二十四日 東京よりソウル向け出発

二十五日 常任理事会開催

なお、常任理事会のソウル開催は、次

期WFB大会地としてソウルが有力候補であるため、現地視察をかねて行なわれるもので、次期大会について協議する。

WFBY事務総長

が来日

昨年五月、スリランカのコロポ市で開かれた、第十回WFB大会の折に発会した世界仏教青年連盟(WFBY)の事務総長チュンチャイ氏が、さる四月二十五日、WFBY日本支部設立要請のため来日、柳国際局長はじめ各部長と話し合いがもたれた。また、先頃スリランカを訪問した東京ブディストクラブのメンバーの歓迎会にも出席して、二十八日離日した。

WFBYの規約の一部を要約すると、一、釈尊の教えを信奉する仏教徒青年の同朋関係を強固にし、社会的、経済的、教育的、文化的、宗教的そして人道的



パナティッサ師と麻布事務総長

な奉仕活動を行ない、WFBと協力して、平和と調和を築くために活動することを目的とする。

一、WFBYは事務局をWFB本部（バンコク市）に置き、会長一名、副会長六名、事務総長一名、財務担当一名の役員を置く。

一、WFBの各センターのもとにある青年グループを単位とした各センターをもって会員とし（WFB支部のない国も可）、年齢は二十歳～三十五歳の青年で組織する。

一、会費は一センター年間会費五十ドル入金金は十ドルとする。

一、総会、各種常任委員会を開催する。などとなっており、WFB（世界仏教徒連盟）と不離不即の関係で活動するもので、連盟発足一年なので現在八カ国より加盟申請があり、近く審査の上、各センターとして実働体勢に入るという段階にあるが、WFBYニュースはすでに発刊され、全仏にも送られてきている。



チュンチャイ事務総長

パンナティッサ師

歓迎会

四月初め来日されたスリランカの高僧パンナティッサ大僧正は、来日以来多忙な日々を過ごされていたが、五月十四日午後六時より、銀座三笠会館において、全仏事務総局の主催により歓迎懇親会が開かれた。

インド日本寺へ寄金

新潟県仏教会（土田真也会長）より印度日本寺の建設について金五万円也の寄付金が全仏に寄せられ、早速、国際仏教興隆協会へ手渡した。

哀悼

G・P・マララセーケラ博士

四月二十三日、心臓麻痺のため、コロンボの自宅にて逝去。七十二歳。博士は、一九五〇年に発足したWFBの創立者であり、以来八年間会長をつとめた。昭和二十七年の第二回世界仏教徒会議日本大会の折には来日し、以来数回に亘って来日している。

また、初代駐ソ連セイロン大使として赴任するなど、セイロン国政府にも多大の功績を残した。

韓国仏書贈呈感謝録(敬称略)

高野山真言宗宗務所(第二次分)

「秘密仏教の研究」等三十三冊

曹洞宗宗務所(第二次分)

「禅学要集」等四十六冊

小計七九冊 累計七六三冊

事務総局録事(五月)

三日 文化会議京都打合せ

五日 親鸞聖人慶讃法要出席(東京本願寺)

十日 記念誌編纂委員会

十一日 局内会議

〃 表彰者選考委員会

十四日 監事会

〃 パナティッサ師歓迎会

十五日 WCRP青年部会発会式出席

〃

十八日 局内会議

〃 表彰者選考委員会

二十一日 理事会

二十五日 関東甲信越静ブロック会議(二十六日まで)

〃 富士通コンピュータ講習会出席(二十六日まで)

二十六日 局内会議

〃 記念誌編纂委員会

二十九日 宣言決議文起草委員会

〃 議案審査委員会

〃

〃

昭和四十八年六月一日発行
六月号 第一八八号

本真珠御念珠 印度ヒスイ御念珠

他 ネックレス・ブローチ・リング・タイピン

養殖場 三重県志摩郡大王町船越
店 舗 神奈川県逗子市逗子7丁目1-9
TEL 0468 (71) 6 2 3 1

石川真珠店

発行人 柳麻布
編集人 了照堅海

発行所 財団法人

全日本仏教会

東京台東区西浅草一ノ五ノ五(東京本願寺内)
電話〇三(八四三)六三三(四一)〇三

インド日本寺落慶

財団法人国際仏教興隆協会が釈尊成道の聖地ブダガヤに建設中のインド日本寺は本年12月落成の運びとなり、12月1日から15日まで各宗・各団体によって現地で毎日慶讃法要が営まれます。

12月8日には全日本仏教会によって落慶式が厳修されます。

詳細は下記の取扱旅行会社にお問い合わせ下さい。

— 指定取扱旅行会社 —

国際旅行業協会会員

運輸大臣登録一般154号

株式会社 子代田トラベル

東京都港区南青山5丁目6番20号(千成ビル)

電話407-3612(代)・400-5100 郵便番号107